

# 学校規模適正化にかかる基本方針

東彼杵町教育委員会

## 1. 児童生徒数の現状と今後の推移

### 小学校における学年別児童生徒数と今後の推移

小学校	小6	小5	小4	小3	小2	小1	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
千 綿	20	33	23	31	24	25	25	19	19	23	16	13
彼 杵	39	39	24	32	26	32	28	22	27	26	23	21
大 楠	16	10	17	8	9	6	7	10	6	8	6	6
音 琴	4	4	6	5	1	6	1	2	4	5	7	4
計	79	86	70	76	60	69	61	53	56	62	52	44

  

H24	440人					
H25	422人					
H26	389人					
H27	375人					
H28	361人					
H29	353人					
H30						

### 中学校における学年別児童生徒数と今後の推移

中学校	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
千 綿	30	17	25	20	33	23	31	24	25	25	19	19	23	16	13
彼 杵	49	61	48	59	53	47	45	36	44	36	34	37	39	36	31
計	79	78	73	79	86	70	76	60	69	61	53	56	62	52	44

  

H24	230人			H30	205人	
H25	230人		H31	190人		
H26	238人	H32	183人			
H27	235人	H33	170人			
H28	232人	H34	171人			
H29	206人	H35	170人			
H36						

## 2. 教育委員会としての学校適正規模についての基本的な考え

### (1) 教育の機会均等

義務教育として提供する学校施設・設備・教職員の配置、学級編成などの教育諸条件については、教育の機会均等の観点から、その公平性を確保するよう努力する必要がある。学校規模もその諸条件の一つであり、規模の確保、配置の適正化を進める必要がある。

### (2) 適正規模

基本的な考え方において、「子供にとってどうか」という視点が大切である。学校教育では、集団から様々な影響を受け、学力・人格・人間性・社会性が生まれる。このことから、望ましい教育環境を実現していく必要があり、子供たちにとって好ましい教育環境を実現していくために、極端な少人数学級（複式学級）は解消すべきと考える。

### (3) 配置

学校配置における一つの条件が通学距離であるが、一定の規模を確保することを前提とすると、従来よりも遠距離通学となることが考えられるため、その対策について十分配慮するとともに、子供たちや保護者に過度の負担とならないように方策を講じる必要がある。

### (4) 東彼杵町という枠組みの中で、現状を考慮し学校規模の適正化を図る。

## 3. 学校規模の適正化を行う上で講ずべき方策

(1) 統廃合については、PTAや地域と十分協議を行う必要がある。そのためには、対象校区ごとに説明会を開催し、保護者、地域との話し合いの中で進めていくことが必要と考える。

(2) 統廃合を進めていく協議では、統合後の通学手段について、その方策を十分に検討して地域へ示し、理解を得ることが重要であると考ええる。

(3) 小学校については、「子供にとってよりよい環境は」という視点で考えるべきであるが、中学校以上に「地域の文化の拠点」としての機能が強く、地域活性化のために果たす役割が大きいことから、児童の発達段階も考慮しながら慎重に対処すべきと考えている。

(4) 中学校においては、学級編成や部活動の維持、指導体制の充実面など中学校としての教育機能が十分に発揮されていることが重要である。そのためにも、現状把握と将来の動向を的確に把握し、中学校として望ましい教育環境の実現を早期に図る必要があると考えている。

(5) 統廃合後の学校跡地の活用については、地域の意見を十分に反映させることが

重要と考えており、様々な利活用の方法を検討していく必要がある。

#### 4. 適正規模・配置に向けての方針

I 中学校については彼杵中学校を拠点とする。

□平成27年度～28年度ごろまでに、東彼杵町立東彼杵中学校（仮称）として、千綿中学校と彼杵中学校を対等のかたちで1校に統合。ただし、条件が整えば前倒しもあり得る。

○校章、校歌等の制定

○通学手段：千綿中学校区…スクールバス配備 4台

彼杵中学校区…現状のまま

II 小学校については千綿小学校及び彼杵小学校を拠点とする。

□平成28年度～29年度ごろまでに、大楠小学校及音琴小学校を彼杵小学校へ統合し、小学校を2校とする。その後は、児童生徒数の推移を考慮して判断していく。

○通学手段：音琴小学校区及び大楠小学校区…スクールバス配備 4台

彼杵小学校区…現状のまま

## 【参考資料】

## 学校施設の現状

学校名	建物区分	階数	建築年	教室数		備考
				普通	特別	
千綿小	校舎	3	S 4 5	8	1 0	S61 大規模改造・H22 地震補強
	校舎	3	S 6 2			
	体育館	1	H 1			
彼杵小	校舎	3	S 4 3	1 0	9	S59 大規模改造・H21 地震補強
	校舎	3	S 5 9			
	体育館	1	S 5 9			
大楠小	校舎	3	S 5 7	6	6	
	体育館	1	S 4 8			H22 地震補強
音琴小	校舎	3	S 6 1	4	9	
	体育館	1	S 4 9			H22 地震補強
千綿中	校舎	3	S 5 5	6	1 6	H22 地震補強
	校舎	1	S 5 5			
	体育館	1	S 5 5			H22 地震補強
彼杵中	校舎	3	S 5 6	7	1 5	
	校舎	3	S 5 6			H20 地震補強
	校舎	2	S 5 6			H20 地震補強
	体育館	1	S 6 0			

※特別教室は、理科室、美術室、技術室、家庭科室、パソコン室、図書室、特別活動室など。